



東住吉区の杭全交差点について「自転車の通行ができない変な交差点」という投書があった。実際はどうなのか。現地に向くとともに、東住吉署などで取材した。【梶川伸】

まず、現場を見る。杭全交差点は、東西の国道25号と南北の今里筋が交差し、さらに別の道路も交わる大きな五差路になっている。自転車専用レーンがあるが、交差点の手前で途切れている。自転車専用レーンが走り、交差点の直前で行き場を失い、さらに横断歩道を求めてウロウロすることになりかねない。

実際には、自転車に乗る人は、交差点で歩道橋があるためだろ



杭全交差点 自転車 渡れへん!



歩道から車道に出て渡っている。しかし、投書した男性(66)は「交通量が多いので、車道に出るのも勇気がいる。交差点内では、左折の車に巻き込まれそうで怖い」と訴える。

最大の欠陥は、横断歩道が交差点から離れていることだ。一番近いのは交差点北側の今里筋にある押しボタン式信号の横断歩道だが、70メートル離れている。最も遠いのは交差点南側の今里筋で、320メートルもある。押しボタン式信号で渡っていた女性も「はるか手前から、横断歩道を探して道路を渡っておかないと危険」と、この交差点の不都合さを話した。

道路交通法では、自転車は「車道」に分類され、車道を走るのが原則。しかしボタン式の横断歩道のため、交差点に横断歩道がなくても、車道を走ればよい。ただ、車道では車との接触事故が心配される。事故を防ぐ有効な手立てが、横断歩道や自転車専用レーンだ。

東住吉署によると、杭全交差点の午前7時から1時間の車の交通量は、01年の調査で6104台と多い。同署は91年、歩行者や自転車などの安全対策として、交差点東側1-5の国道25号に信号のある横断歩道をつけた。01年には今里筋の押しボタン式の横断歩道を取り付けた。

もっと交差点近くに横断歩道ができないのか？ 同署は「横断歩道を設けると、車の停車位置を交差点から遠ざけ、大きな交差点をさらに大きく広げることになって、車の

歩道橋
専用レーン
横断歩道

あってもスロープなし
途中で消えてしまった
70メートル手前では遠くって

車道を走るか
遠回りするか

通行に支障が出る恐れがある」と説明する。さらに、四つの道路に「左折可」のレーンがあるため、歩道を設ける場所が難しいという現実的なネックもあるという。

自転車利用者からは、歩道橋のスロープ設置の要望が出たことがある。歩道橋は68年に建設された。当時としては画期的だった。今となっては幅が狭く、人と自転車が一緒に通ることができないなどの理由で、スロープ設置は難しいと判断された経緯がある。

この交差点には、歩行者や自転車より車を優先する思想が根底にあるようにだが、自転車は当面、遠回りをして横断歩道を渡るのか、安全を見極めながら車道を走る以外になさそうだ。車の運転者は「自転車は車道を通る」と再認識し、自転車の安全に配慮する意識を持つことが大切だろう。